



新型コロナウイルスによる感染が連日テレビで報道されています。私たちは噂やデマに惑わされず、正しい情報を知り行動することが大切です。現在の情報による感染予防は、「石鹸を使ってこまめに丁寧に手を洗う」「咳エチケット」だそうです。日々疲れを残さず体調を整えることや不必要な外出を避けることも大切だそうです。



乳幼児は好奇心が旺盛で周囲の様々なものに興味を持ち、活発に未知のものを探求しようとします。その反面、危険に対する想像力や判断力、身体能力などは未熟で、遊びに夢中になっているときなどに思わぬ事故が起こることがあります。

周りにいる大人は、子どもを取り巻く危険を回避し事故に遭わないために子どもの成長に合わせた気配りをするのが大切です。そのためには、子どもの年齢にあった特徴を知ることがポイントになります。

お座りの時期

- ☆じっとしているようでよく動く
- ☆手に触れたものを何でもつまむ
- ☆自分の意思で上手く物を動かさない



赤ちゃんは周りのもの全てに興味を示しますが、危険を予知することはできません。大人が気配りをし、事故防止の認識を深めることが大切です。この時期はソファやベッドからの転落に注意してください。



ハイハイからつかまり立ちの時期

- ☆小さい物も指でつまむ
- ☆つかんだものを口に入れる
- ☆自分で移動ができるようになる



からだが大きく成長し、運動能力も大きく変化します。子どもが見える範囲や手の届く範囲が広がることを意識して、危険なものは1m以上高い場所に置くなど安全な部屋作りが大切です。タバコやシール、電池などの誤飲に注意してください。



伝い歩きから一人歩きの時期

- ☆バランスを崩して転びやすい
- ☆好奇心が旺盛である



子どもは大人が思いもよらないものにも興味を持つため、どのような行動をとるのか見守りながら、その子にあった危険を排除することが大切です。浴槽や洗濯機への転落（水の事故）に注意してください。



走ったり飛び跳ねたりする時期

- ☆夢中になると他に注意が向かない
- ☆外遊びの機会が増える
- ☆視界は狭い



子どもは益々活発になり行動範囲も広がり、転落、やけど、交通事故などに遭う危険が高まります。危険と安全について子どもが理解できるまで丁寧に教えてあげましょう。



子どもが外で出遭う事故の約4割が自宅から100m以内で起きているそうです。家中に危険はないですか？庭や近くの公園、よく通る道路に危険はありませんか？

やけど

一年で一番寒いと言われる2月。ストーブや石油ファンヒーターなど暖房器具によるやけどにご注意ください。その他にも使用中のグリル、加熱中のポット、炊飯中の蒸気、ヘアアイロンでやけどをしたお子さんがいました。お家の点検をお願いします。

＊ホットカーペットや使い捨てカイロによる低温やけどにもご注意ください。

やけどをした時は、とにかく冷やす！そして病院へ

やけどで皮膚が赤くなってしまった時、最低でも10分間は冷やしてください。皮膚の赤味が引かない時、痛みが残っている時、水疱になってしまった時は冷やしながらか直ぐ病院へ行きましょう。

＊小さいお子さんのやけどは、思いのほか重症化していることがあるので、直ぐ受診することをおすすめします。



園医の一言

診療所でもインフルエンザA型は減ってきましたが、B型や胃腸炎症状で受診するお子さんが増えています。

2月5日付